

鳴子の火山活動解説資料（平成30年8月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1～図3）

21日に実施した現地調査では、前回（2017年11月8日）と比較して潟沼周辺の状況に特段の変化は認められませんでした。

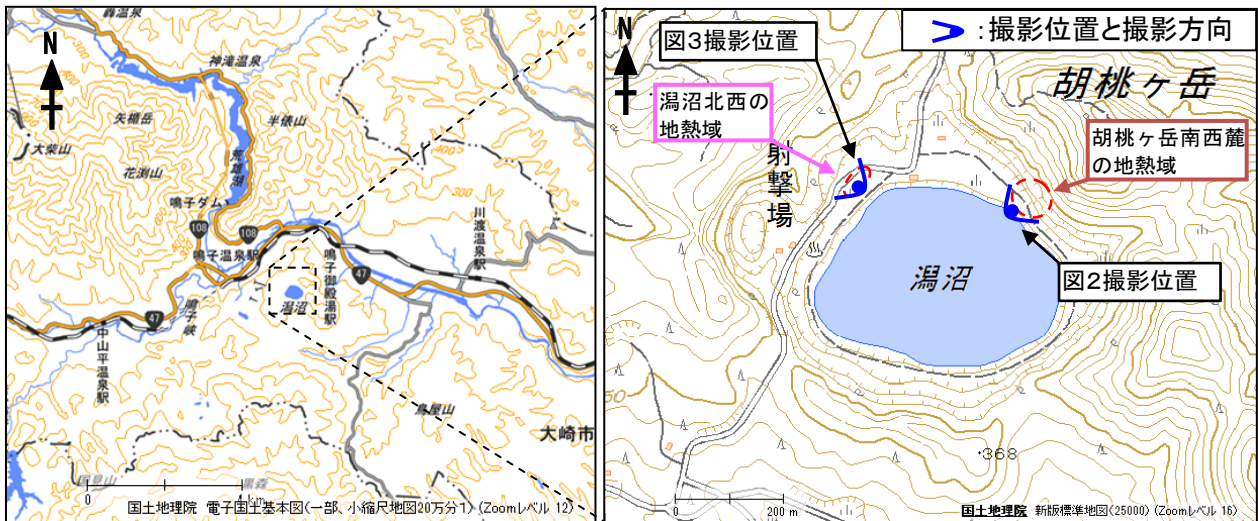


図1 鳴子 潟沼周辺の地熱域の撮影位置と撮影方向

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ (<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「電子地形図（タイル）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

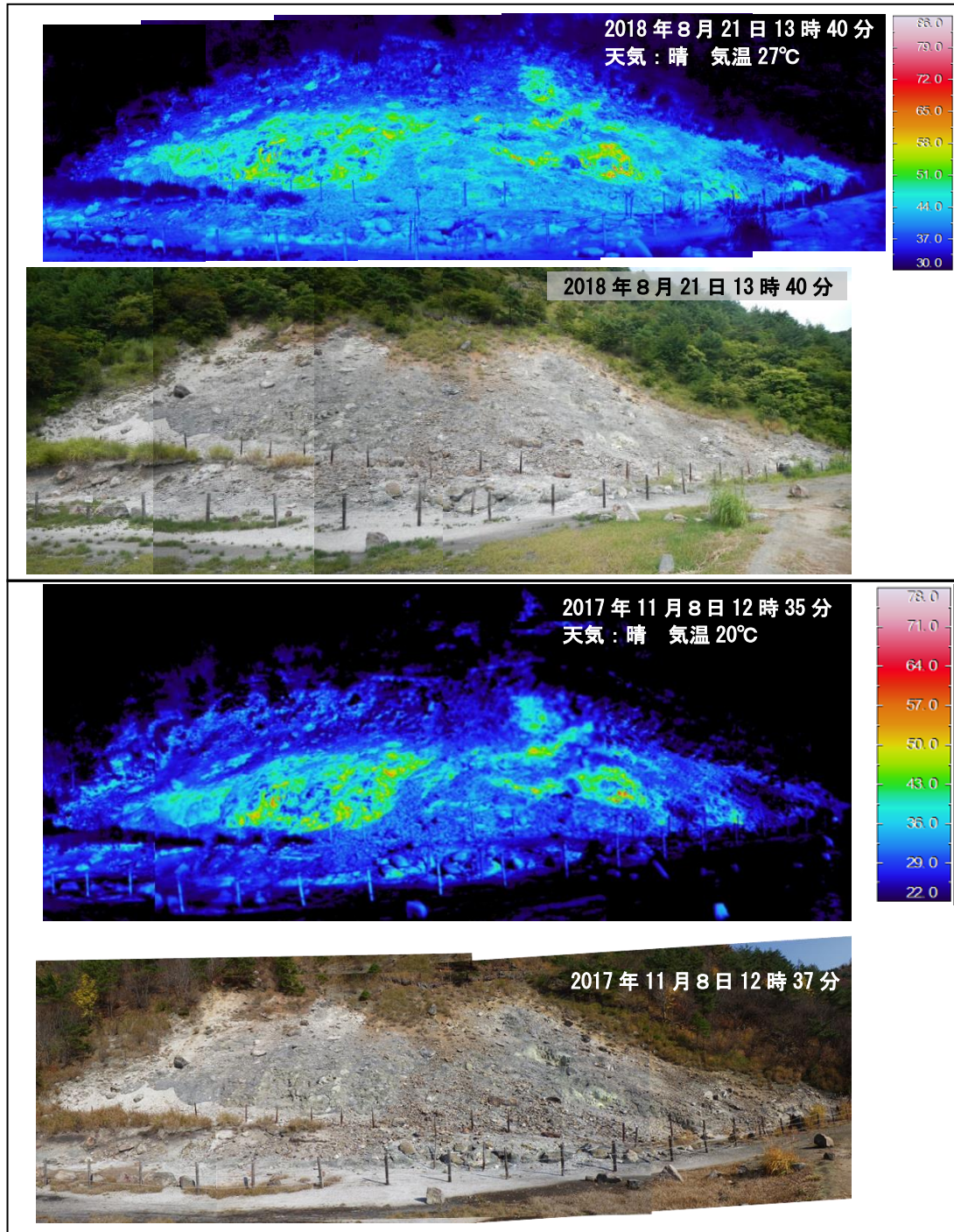


図2 鳴子 南西から撮影した胡桃ヶ岳南西麓の地熱域の状況と地表面温度分布¹⁾

・前回（2017年11月8日）と比較して、日射の影響の違いはあるものの、噴気及び地熱域の拡がりに特段の変化は認められませんでした。

1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

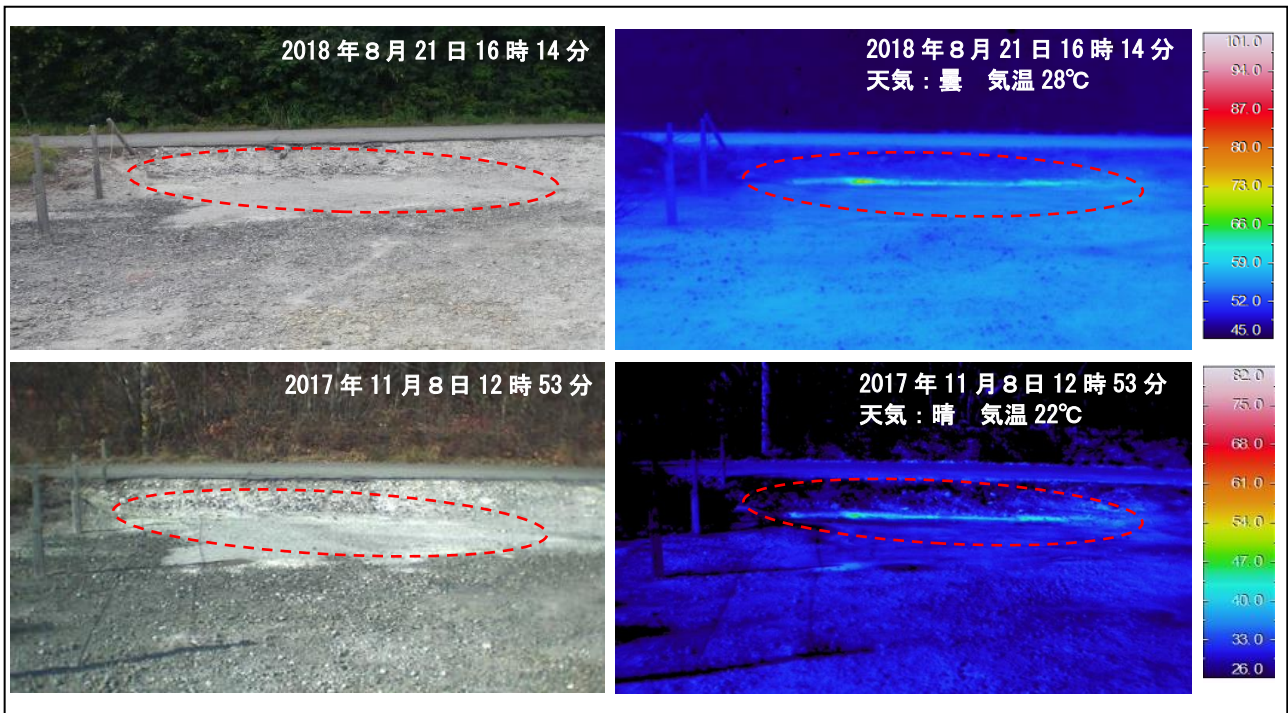


図3 鳴子 南東から撮影した濁沼北西の地熱域の状況と地表面温度分布

- ・前回（2017年11月8日）と比較して、日射の影響の違いはあるものの、地熱域（赤破線）の拡がりに特段の変化は認められませんでした。